

【「森の工場」づくりと林業従事者の育成について】

B： 山林を大切にしたいということが目標で、手入れのできていない山への作業道の開設や、間伐、ある程度大きくなって出荷できるようになった材木を買い取って、製品にして、出荷しています。地権者から最低限の負担金を貰うようになっていますが、少しでも地権者の負担を減らすために、市場価格の一番よい適寸の材を製品化して出荷しています。

最近、山にあまり興味がない人が結構いまして、「お金がかかるなら別に山の手入れをしなくてもいい」という人もいます。道がなければ山に登れませんが、ある程度基盤を作れば、あとは個人でもそこそこの手入れができるようになります。それこそ、自分で日曜日とかに10本ぐらい木を切って売れば、木の種類にもよりますが、小遣いにもなります。その辺を、もう少し分かってもらいたいです。

活動の中での課題としては、若い林業従事者が少ないことです。「緑の雇用」事業を通じて若年の方も集まってくるんですが、それでも実際、林業に従事しているのは高齢の方が多いです。若い人に山のことを知ってもらって、もっと興味を持ってもらいたいのですが、職のない若者でも仕事を選んでるように感じます。私たちも職業安定所を通して、何人か採用しているんですが、具体的な業務内容を聞いて、「それだったら辞退します」という人もいます。

今後の取り組みとしては、林業で活躍してもらえそうな若者を育てていきたいです。

要望としましては、「森の工場」が市町村単位でしかできないので、市町村をまたいだり、宿毛であれば、中村へ行くよりは愛媛県の方が近い地区もありますので、県をまたいで「森の工場」ができるようになれば、もっと山の手入れに手がまわるのではないかと思います。

知事： いくつかポイントとなるところをご指摘いただいたと思うんですが、まず作業道については、(山林の中の)路網密度をあげて、(作業の)コストダウンを図らないとなかなか大変だということで必要でしょうし、それから、(山の持ち主に)林業に興味を持ってもらうためにも山に行けるように作業道が必要だということですね。

「森の工場」の話もありましたが、「森林整備加速化事業」という国の制度があり、これが平成23年度までで終わることになっています。これが平成24年度も続くかどうか、非常に大きなポイントだと我々も思っています。7月の全国知事会の場でも議論になりました。高知県も、この事業を使ってたくさん「森の工場」の整備を進めてきたので、この事業がなくなってしまうと、急ブレーキがかかるんじゃないかと非常に心配しています。是非、今後も継続されるように声をあげていこうと思っています。

若い人に林業に興味を持ってもらって、仕事に就いて、定着してもらうことが非常に重要だということですが、興味を持ってもらうという点では、間伐体験など、林業をしたことがない方に実際に体験する場を、今後もいろいろな形で増やしていきたいと思っています。また、ノウハウを教えていただければと思っています。

その上で、仕事に就いて、定着してもらうということですね。月給制かどうかはすご

く大きいポイントだと聞いたんですが、その辺はどうでしょうか。

**B：** 山師は、大体が日給制です。他の土木作業員と比べると、仕事に就いてすぐは給料が安いんですが、ある程度慣れてくれば、2割増し、3割増しぐらいは払っています。そうすることで、天候により月の勤務日数にバラつきはありますが、毎月の給料がある程度同じぐらいになるようにしています。

休日も他の労働者よりは多いので、考え方によっては楽じゃないかなと思うんですが、夏や冬は外での仕事ですので、きつい面もあります。

知事： 若い林業従事者を増やすためには、高校生などの段階で森に入ってもらって、いろいろ体験してもらうのが一番大きいと思います。他方で、県がどういう雇用条件だったか若い人が来てくれるのかを調べて、情報提供していくことも必要かもしれません。月給制って簡単に言うなという話なんだろうと思うんですけど、できる限り若い人に入ってもらいたいので、そこは大事な部分かと思います。

ご存知のとおり、高知県の林業従事者は減少傾向にあったのですが、2、3年ぐらい前から少しですが増え始めています。特にこの宿毛は活発で、若い人の林業従事者の比率が高知県全域に比べて、圧倒的に多いんだそうですね。そういう意味において、勢いのある地域だと思いますので、我々もまた勉強させていただいて、取り組みを進めたいと思います。

最後に、「森の工場」について2点お話がありました。1つ目の市町村をまたいでやるべきだというお話については、制度上、市町村をまたいで「森の工場」はつくれるそうです。でも、やっていないということですよ？

**B：** 結局、各市町村の役場が地元以外の事業者に補助金を払いたくないというところがあるみたいです。

知事： そうですか。市町村をまたいでではできると聞いていますが、市町村ごとの考えの違いがあるかもしれませんね。2つ目の、県をまたいだ「森の工場」づくりについては、県によって考え方が違うので、難しいです。

また、ちょっと詳しくお話を聞かせていただき、勉強します。